

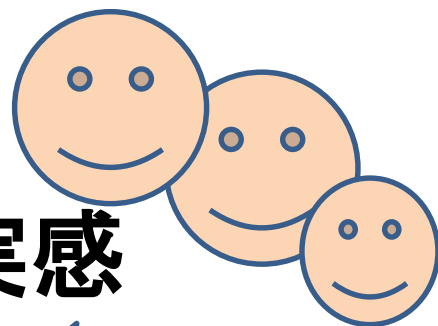


支援の受け手が 支え手にもなる地域社会

松田妙子

近所に顔や名前のわかる
赤ちゃんが何人いますか？

地域での子育て
支えられている実感



10人以上いる
大人を増やす

知っている「あの子」の声は
騒音にならない！

エピソードからはじまる

- 「夕暮れ時にバスで乗り越して降りた、知らない街のバス停にいるみたい」

→身近な地域で子育て家庭をしっかり受け止められる拠点にしたい！

- 「お祭りで焼きそばを買ったけれども地域の絆をちつとも感じなかった」

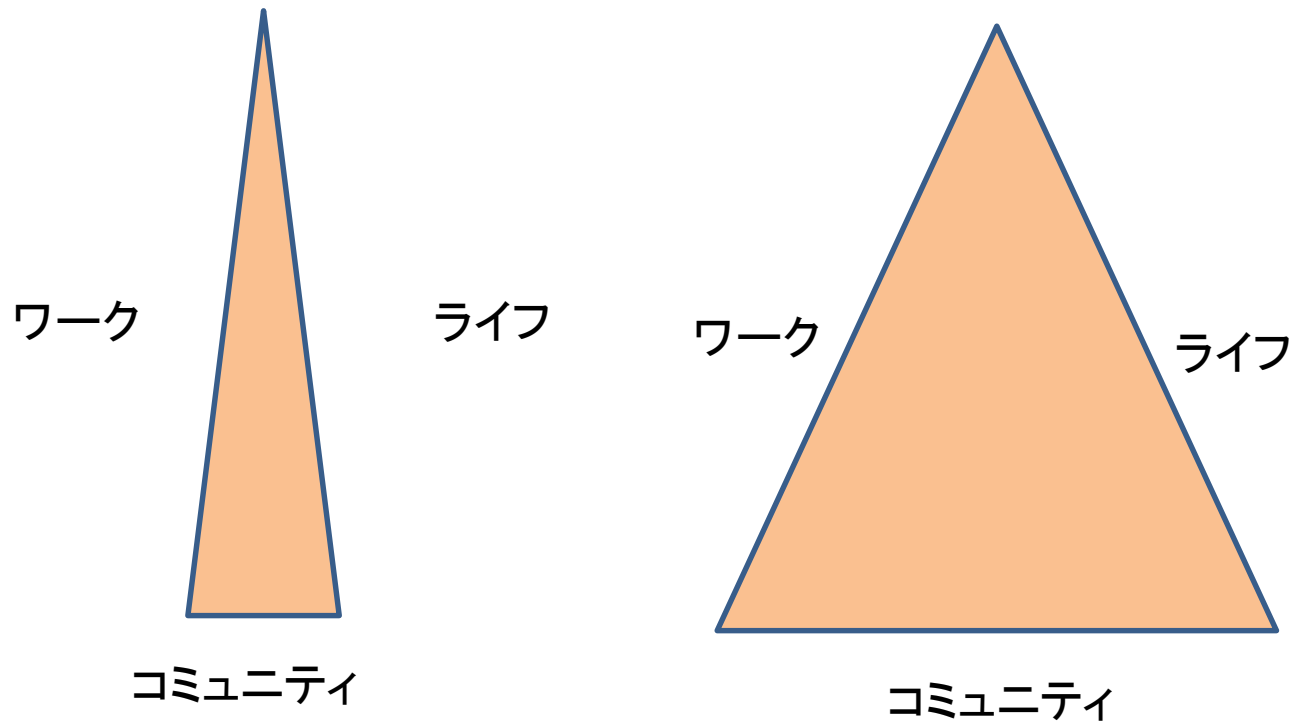
→拠点に来ていればいいのか？

地域全体で子育てをウェルカムにするために拠点がやるべきこと

- パン屋さんからの電話
「弁護士さん紹介して」

→フォーマルな機関とも、インフォーマルな資源とつながっている
私たちだからこそできる相談事業

ワーク・ライフ・コミュニティバランスを！



子育てが始まる時期は「コミュニティ」の底辺をひろげやすい。
地域とつながるチャンス！

地域子育て支援拠点事業

背景

- ・ 3歳未満児の約7～8割は家庭で子育て
- ・ 核家族化、地域のつながりの希薄化
- ・ 男性の子育てへの関わりが少ない
- ・ 児童数の減少

課題

- ・ 子育てが孤立化し、子育ての不安感、負担感
- ・ 子どもの多様な大人・子どもとの関わりの減

地域子育て支援拠点の設置

子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供

地域子育て支援拠点

- 公共施設や保育所、児童館等の地域の身近な場所で、乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等を実施
- NPOなど多様な主体の参画による地域の支え合い、子育て中の当事者による支え合いにより、地域の子育て力を向上

事業内容

- ① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ② 子育て等に関する相談、援助の実施
- ③ 地域の子育て関連情報の提供
- ④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

平成26年度実施か所数
(交付決定ベース)

6,542か所



地域で子育てを支える

子どもの育つみちすじで必要なこととは？



オトナの介入は
どこからどこまで？
支援者の役割は？

**「おんぶ」を伝えるのは誰？
→いつもの時代も当事者たち。**



子育てしながらまちにでよう！

赤ちゃんとのふれあい授業

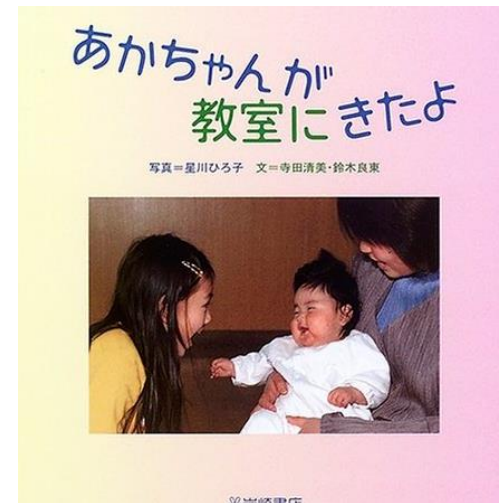
現状:初めての子どもが生まれる前に
赤ちゃんの世話をしたことのない親が
4人のうち3人(横浜市・2013年)

目的:次に親になっていく世代が
子どもがいる暮らしを見聞きし、成長発達
のイメージを得る

自分が生まれてきたこと
を「根っこ」と捉えて
自己肯定感が高まる

子育て中の親に
地域での役割をつくる
「ティーンエイジャーに体験をプレゼント」

循環を生み出す



おでかけひろば まーぶる



せためし(まーぶる)



月に1度、
一緒にたべる場
若者も、親子も、
地域の方も
まざりあってすご
せる場をめざし
ます♪

おでかけひろば ぶりっじ



地域の中の
「共同養育」
の場を
つくっていく

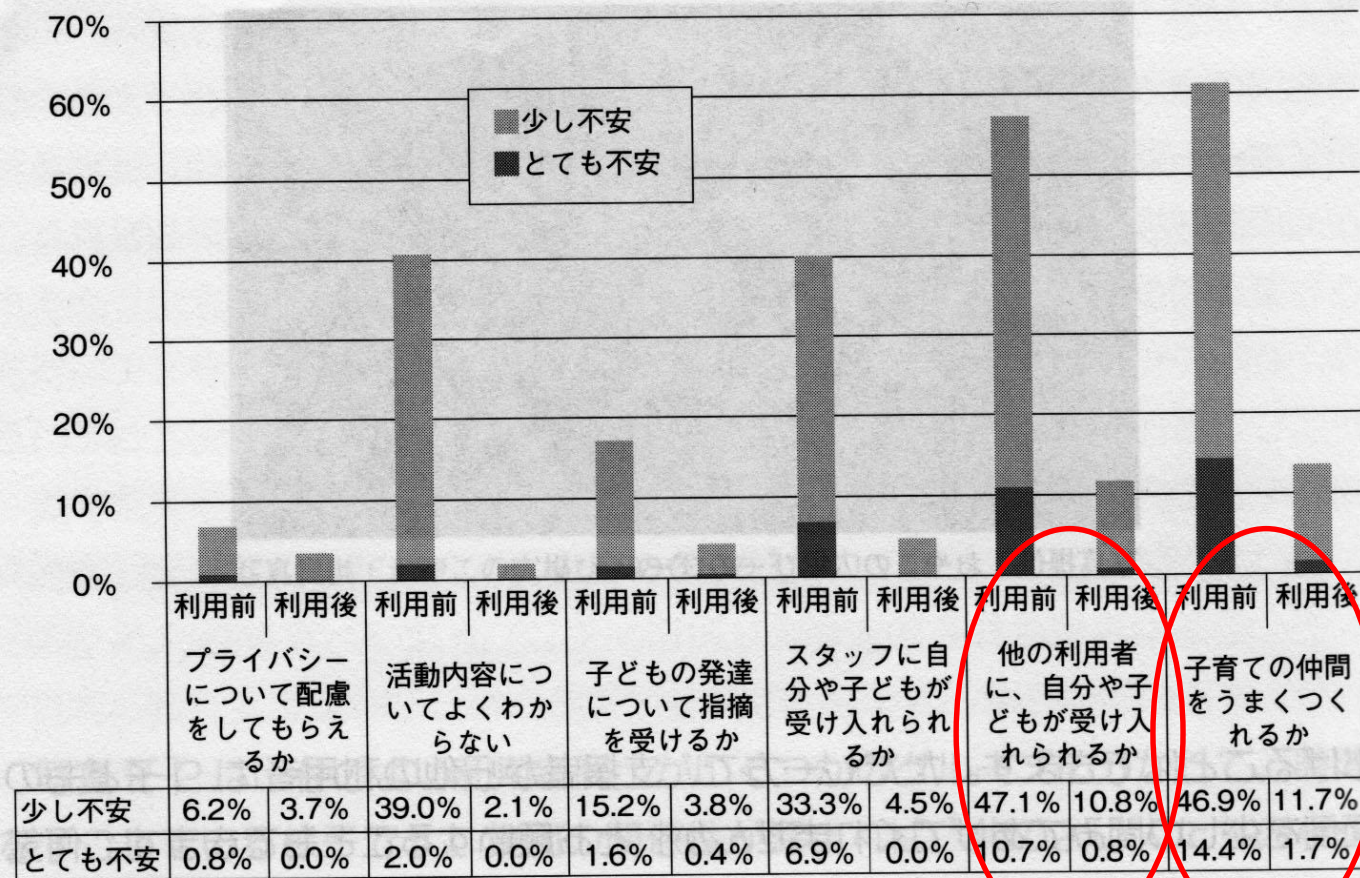


ろかめし(ぶりっじ)



地域子育て支援拠点の利用の際に感じた不安

図 2-10 地域子育て支援拠点の利用の際に感じた不安



注：表中の数値は%。



ちょっとした
「ヒント」
をつかんで
親子の関係や
毎日の暮らしを
ダイナミックに
変化させる力を
当事者は
持っている。

「2050超高齢社会のコミュニティ構想」

若林靖永・樋口恵子編
岩波書店



第5章
「支援の受け手が
支え手にもなる地域社会」

→支援の循環・円環性

世田谷の実践 区民版子ども子育て会議 (h26は11回開催 h27は4回、学会発足！)

- ・ 手弁当ではじめる。(数人からでも、いつからでも)
- ・ 参加者が次にキーパーソンをみつけて連れてくる
- ・ フラットな立場で、テーマを区切って。
「切れ目ない支援」「外遊び」「防災」・・・官民まじえてもいあがる！
- ・ 2回目からは行政が場所を確保してくれるようになる。
- ・ 食べながら、飲みながら
- ・ 終わると必ず懇親会
- ・ 楽(学)会で報告！

私たちにも
役割がある！



世田谷版ネウボラ 時代の 地域子育て支援拠点(おでかけひろば)と 利用者支援基本型(地域子育て支援コーディネーター)

予防的に関わる

「こんなことでもいいのかな」軽微なことでも相談し慣れてもらう

「場」で支えあうことで「環境」で解決される

課題を切り取ると辺境化するくありのままで地域で包摂される

ストリングスに着目

興味関心、経歴にじっくりアプローチ→居場所と出番ができる

モニタリング機能

見守りだけでなく、ちょっと踏み込める(直接的にも、間接的にも)

災害時を想定して

どこにも所属していない時期に「つながっておく」

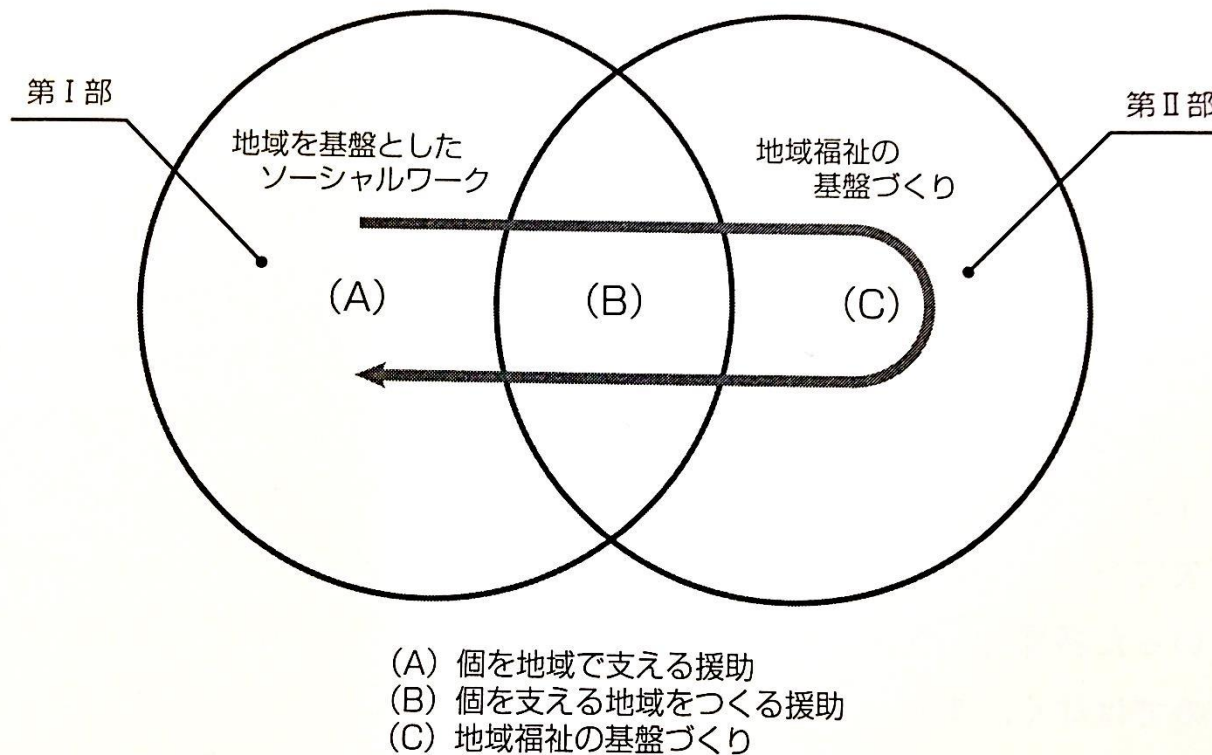
なかったらつくる！

小さな、パーソナルなものから。資源の開発

必ず誰かが応えてくれる(解決しないとしても)という根っこをつくる
世田谷での「子どものいる暮らし」をともにつくっていく仲間がいるよ

個と地域の一体的な支援

図0-2 「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の位置づけ



子育てしながら、まちに出よう！

- 発生予防とアウトリーチ

起こらないことを、起す
何も無いときからつながる

- エピソードからはじめる

たったひとりでもいい

- 一口大に切る

できる人ができるだけ

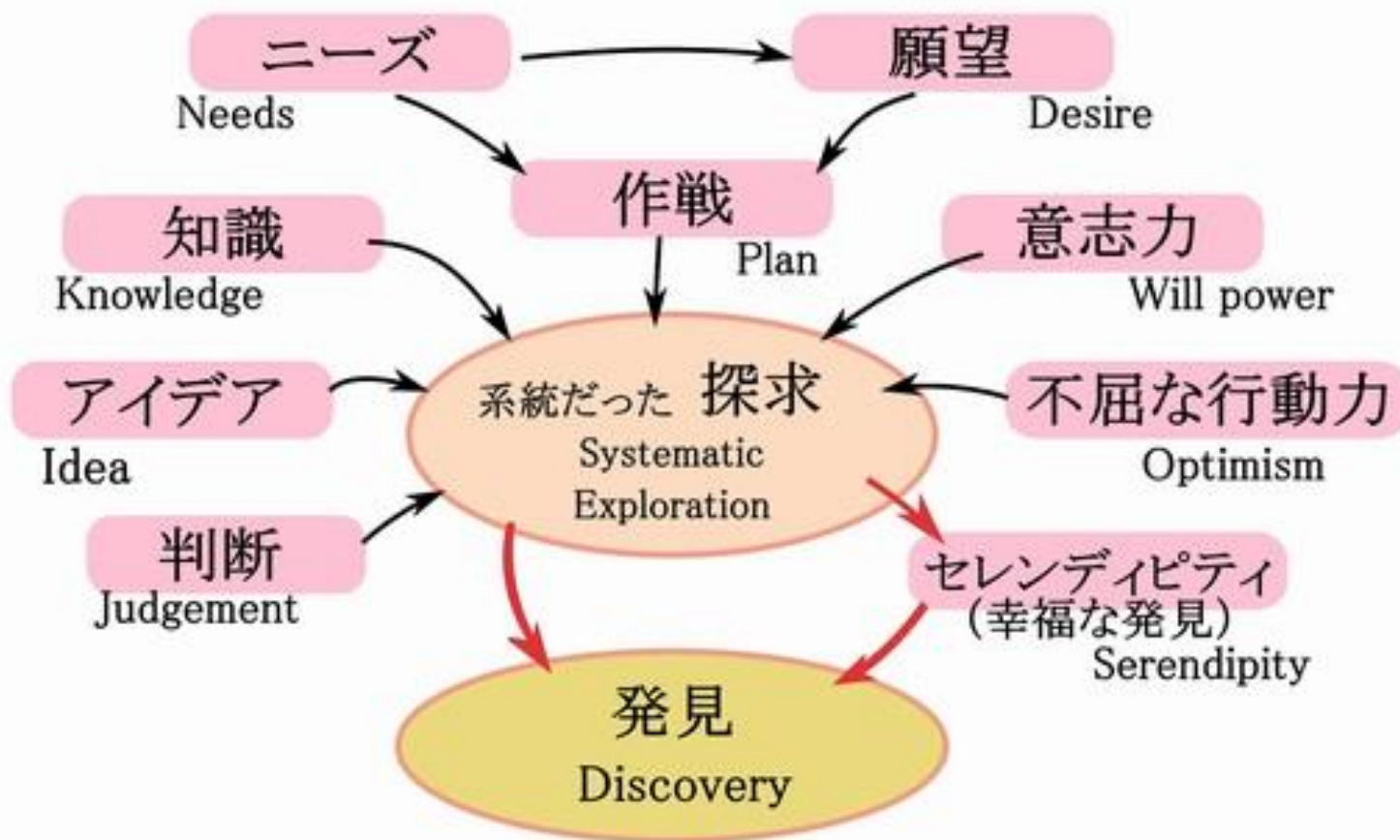
- オーナーシップをはぐくむ

自分たちで見守り育てるまち

まちの居場所の「キモ」は 中間支援機能

- ぶりっじ機能
誰かと誰かをつなぐ
ナニカとナニカをつなぐ
- アジト機能
自分をわかってくれる仲間
ナニカをたくらむ
- トランポリン機能
うっかりおっこちても、受け止めてくれる
跳ね上げてくれ、しかるべきところへ戻れる

根岸博士 発見の10項目



ありがとうございました！